

現代社会における祭祀儀礼の変化と伝承 —スサノオ神話に由来する疫病退散儀礼を中心として—

姚 琮

(論文内容の要旨)

本学位申請論文は、現代社会における疫病退散儀礼の特徴・変化および次世代への伝承の問題を分析し、フィールドワークから考察することを目的にしている。本論の研究対象はスサノオ神話に由来する疫病退散儀礼である。スサノオはもともと日本神話の中の神であるが、外来の疫神である牛頭天王と習合して中世からは日本の疫病神として広く祭られてきた。しかし、明治元年の「神仏判然令」によりスサノオは、牛頭天王と分離されて、日本の疫病神として祭られるようになった。また、スサノオに由来の深い神社や地域の祭礼、神楽は日本の各地に分布している。本論では4つの地域のスサノオ神話に由来する疫病退散儀礼を事例として取り上げ、現代社会の「変化」と「伝承」問題をめぐって考察した。

まず、第1章では、神奈川県横浜市鶴見区生麦地区「蛇も蚊も祭り」を事例として、祭祀儀礼から見る伝承者の地域アイデンティティという問題を考察した。日本の民俗宗教における祭祀形態の変化という問題領域は、「民俗事象の変化」をめぐって積み重ねられている事例研究の1つである。20世紀中期日本では高度経済成長期に入り、社会では経済が高度に発展すると同時に、人口の高齢化と少子化及び農村の都市化という社会現象が起き、社会環境のこれらの一連の変化は伝統民俗文化にも激しい衝撃を与えた。古い歴史を持つ祭祀儀礼も社会環境の激変に巻き込まれて、組織から祭祀の構造にわたる大きな「目に見える」変化が起きた。一方、形のある「目に見える」変化の裏側には「目に見えない」変化が存在するだろう。祭祀儀礼を担う人々の儀礼に対する認識も変わりつつある。このように、現代社会における祭祀儀礼の変化は大きく「目に見える」変化と「目に見えない」変化に分けることができる。だが、祭祀儀礼の当事者である伝承者の儀礼の変化に対する認識が常に軽視される。現代社会における祭祀儀礼が一連の変化を研究する際に、常に伝承者の立場に立って、彼らは祭祀儀礼に起きた変化をどのように受け入れているのか。また、変化している祭祀儀礼に対し、伝承者はどのようにそれを後の世代へ伝承するのか。そのような問題意識から本章は展開した。

そして、第2章では、三重県津市白塚区「やぶねり」神事を事例として、伝承者の視点から見る祭祀儀礼の「変化」を考察した。現代社会における祭祀儀礼の変化についての認識は、研究者らと儀礼を担う人々とがいつも同じというわけではない。従来、祭祀儀礼の「変化」に対する研究者側の認識においては、祭祀儀礼に歴史的蓄積と一貫性を強調し、祭祀儀礼が現代社会に対応して「変化」した側面に批判的な認識が存在していた。これに対し実際に祭祀儀礼を担う人々は儀礼の変化より、社会環境の変化の中でどのように儀礼を後世代へ伝承するのかという問題を重視している。そのため、現代社会における祭祀儀礼の変化という課題において、研究者と伝承者の両者の認識はずれがあると感じる。第2章では現代化・都市化の社会環境の下で、地域の祭祀儀礼の伝承という問題の解決目標を実現するため、われわれ研究者はいったいどのような姿勢を取るべきかという問題をめぐ

って考察した。

その次の第3章では、茨城県行方市麻生町天王崎「馬出し祭り」を事例として、地域活性化事業の推進と祭祀儀礼の変化を述べた。地域の祭祀儀礼の伝承が極めて危うい状況を緩和するため、地域活性化事業の一環として祭祀儀礼の観光化を取り入れる地域も増えてきた。そのため、観光化など地域活性化事業に巻き込まれる祭祀儀礼は、常に皆の非難の的にされ、文化構築主義を主張する研究者から「文化資源論」として激しい批判を受けてきた。では、地域活性化事業として発展している祭祀儀礼は、文化構築主義がいうように「真正性」を失っているのか。祭祀儀礼の「根本」も次第に消えてしまっているのか。第3章はこれらの問題について分析を行った。

そして、第4章では、大阪市難波「綱引き」神事を事例として、地域の観光化と祭祀儀礼の変化を述べた。観光地の祭祀儀礼は、地域の観光化の推進により、観光客のために行われる儀礼になった。このように観光化された地域の外部環境の中で、伝承者はいかに観光客の期待に対応し、地元の文化を提示していくのだろうか。また、「観光化」される祭祀儀礼に対し、伝承者はどのように「主体性」を維持していくのだろうか。第4章はこれらの問題をめぐって分析を行った。

そして、終章では、本論で取り上げたそれぞれの祭祀儀礼における現代的な「変化」と次世代への伝承のあり方を見出そうと試みた。

このように本論では、スサノオ神話に由来する疫病退散儀礼を研究対象とし、現代社会における変化と伝承を考察した。そして、本論は以下の二つの研究目的を達成した。一つ目は、スサノオ神話と疫病退散儀礼との関連をいくつかの段階に分けて分析することができた。二つ目は、できるだけ調査対象側の立場に立つ、あるいは調査対象と近似した立場に立つという方法によって、異なる調査結果が得られる可能性を求めた。